

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「体すこやか 脳いきいき 笑顔きらきら いつまでも」を理念に掲げ、入居者の日々の生活に反映させられるよう努めている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の朝礼で職員全員で理念を読み上げ共有することで、理念の実践に向け職員一人ひとりが常に意識し日々取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関など来訪者の目に触れる場所に理念を掲げたり、日々の生活ぶりを報告するため「スマイル新聞」を発行したりして家族をはじめ地域の方々に当グループホームへの理解を深めていただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩を毎日の日課としており、ご近所の方や畑仕事をされている方などに自ら挨拶をし、心地よく挨拶が返ってくる習慣となっている。また、近くの保育園の園児とも親しくなり、行き来して交流を深めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会や老人会から行事への招待があれば参加している。また、地元の祭りなどにも参加し、地域の方々との交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々との交流の中で、“グループホームについて知りたい”、“高齢者の介護で困っている”などの相談があれば分かりやすく対応するようにしている。また、散歩をしている時に地域の高齢者に会えばこちらから声掛けし、会話を楽しんだり励ましたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等により職員全体で自己評価・外部評価について話し合う機会を持ち、サービスの見直しを行い、改善に向け取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やその家族、地域の方々や市の職員に参加していただき、日々の取り組みについて報告したり、要望や意見をいただくことでサービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のボランティア活動などに事業所として参加し、市職員と顔なじみの関係になっている。相談や意見交換などが適宜行えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度をテーマとした研修を定期的実施し、学ぶ機会を持ち知識を深めている。現在必要のある入居者はいないが、今後必要であれば活用できるような体制となっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する情報を収集し、事業所における防止マニュアルを作成している。また、研修の機会を設け、ケアの見直し・改善に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所のケア内容・理念などについて管理者が細かく説明し、利用者や家族からの不安や疑問点を受け止め、解決に向け事業所全体で支援している。また、解約時においても十分に説明を行い、その後の利用者の生活をサポートし安心できるよう対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が自分の意見や思いを伝えやすい雰囲気作りに努めている。また、利用者一人ひとりに対して個別の対応が行えるよう職員各々が心掛けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行している「スマイル新聞」に家族宛ての手紙を添付し、暮らしぶりを報告しているほか、家族の面会時に日頃の様子を伝えたり、電話での報告を行ったりしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情等が言いやすいように家族との信頼関係を構築するよう努めている。また、意見箱を設置し、いつでも意見を受け付けられる体制を整えている。意見等あれば、管理者が主体となって職員全体で検討し、サービスの更なる改善に努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各委員会やミーティング等、管理者と職員が話し合える場を多く設けている。また、管理者は職員が率直に意見を出せる雰囲気作りに努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の配置については、入居者の活動時間に手厚いケアを提供できるようローテーションを組み対応している。また、緊急時には管理者も柔軟に対応できるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動については細心の注意を払い、馴染みの関係が崩れることのないように心掛けている。また、職員一人ひとりが希望や意思を言いやすい関係作りに努め、離職を最小限に抑えるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々が均一に研修を受けられる機会が与えられるよう、勤務の調整や参加状況の記録を行い、スキルアップを目指している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との意見交換、研修の依頼及び受入を行い、サービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	主に管理者とユニットリーダーが職員の疲労・ストレスの把握に努め、気づき、不満など職員の声に耳を傾けている。運営者は管理者を通して職員の状況を掴み、働きやすい環境作りを心掛けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己を振り返り更にまい進できるように、定期的に筆記により自己表現を行い、自己を見つめなおす機会を設けている。また、労働環境を整えることで職員が意欲的に働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接を行い、本人の話をゆっくりと傾聴できる環境を作り、本人に対する理解を深めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に家族と面談する機会を持ち、利用検討に至った経緯や本人の状態、家族の思いなどを情報収集し、受け止められるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談で収集した本人や家族の希望を元に、グループホーム内で対応可能なことについては、ミーティング等での検討を行い支援するようにしている。解決し難い場合は、併設病院・施設をはじめ、他のサービス利用についても相談・検討を行い、必要なサービスがスムーズに利用できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に対し、入居前に施設見学や体験を実施している。グループホームでの暮らしについて丁寧に説明し、質問などに対応している。来所時には、本人や家族が緊張せず和やかに過ごせる雰囲気作りに心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除等の家事全般を入居者と共に行い、入居者のこれまでの知識や経験を活かせる機会を多く持つようになっている。また、日々のコミュニケーションの中から本人の希望を聴取するようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会を通じて家族とのコミュニケーションを図り、本人についての情報を共有化し、共に支えていけるよう信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前や入居時に本人や家族から情報をよく収集し、本人と家族との関係を理解するようにしている。また、入居後も本人の生活の様子を家族に伝え、これまでの関係がよりよくなるようサポートしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別にアセスメントを行い、本人の希望に合わせて支援を行っている。家族の協力を得て、行き慣れた美容室へ出かけたり、毎日の散歩で顔なじみになった地域の方が面会に訪れたりすることもある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事全般をはじめとする日常生活の中で、自然と入居者同士が助け合い共に支え合う関係が構築できている。職員は利用者同士の関係を把握し、過剰な援助は控え見守るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された利用者に対し、他の居宅サービス事業所を通じて情報を共有することでその後の利用者の様子を把握し、時には電話や訪問などを行い関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を可能な限り取り入れていけるよう、本人や家族から情報を収集し、ケアプランを通してサービスに反映できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成し、在宅での様子や前施設での生活ぶりを家族や関係職員などから情報を得て、サービス提供に役立てている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それまでの一日の過ごし方を本人や家族から聴取し、本人ができることはもちろん、できないであろうと本人や家族が思っていることであっても、職員のサポートによってできることが増え可能性を引き出せるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意見や苦情等が言いやすいように家族との信頼関係を構築するよう努めている。また、意見箱を設置し、いつでも意見を受け付けられる体制を整えている。意見等あれば、管理者が主体となって職員全体で検討し、サービスの更なる改善に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、更に本人の状態に変化が生じた時にもモニタリングをした上で職員間で話し合う機会を持ち、計画の見直しを行っている。その際には家族にも十分に説明を行い、同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを作成しており、本人の日々の様子を細かく記録している。職員間で情報を共有し、介護計画に沿ってサービスの提供を行うとともに必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々のコミュニケーションの中から本人や家族の希望を聴取し、個別に外出支援を行うなど柔軟な対応を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署員立会いのもと防災訓練を実施したり、ボランティアで講師を招いて絵手紙や生け花を楽しむなど、入居者が地域でいきいきと生活できるよう、必要に応じて各関係機関と連携し、サポートを要請している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向を踏まえ、必要に応じて訪問理美容を利用したり、書道や生け花、絵手紙などの趣味を楽しめるよう講師を招いたりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員とは、入居者のことを相談したり、地域で困っている方の受入について相談を受けたりして常に情報交換が行え、協働できる関係である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人・家族と十分に話し合いかかりつけ医を決定しており、必要に応じて専門医への受診ができるような体制を整えている。また、継続して本人の健康状態や受診状況を家族と話し合うことで、本人・家族の希望を取り入れた医療が受けられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門外来を定期的に受診し、指示・助言を受け、それを個別プログラムに反映させ、認知症進行予防に積極的に取り組んでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整えており、看護師と連携しながら日々の健康管理を行っている。また、併設医療機関との連携も密に行っており、急変時には素早く対応できる体制を整えている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日頃から医療機関への相談や情報交換を行い、入院治療が必要となった場合でもスムーズに受け入れてもらうことができている。その後も適宜情報を共有するようにし、早期退院に向け連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化・急変した場合は、看護師や医療機関と連携を図り対応する。また、看取りに関しては、事前に話し合いの場を持ち、方向性を決めるようにしている。主治医・家族・事業所が協議し決定することを重要事項説明書に明記しており、掲示もしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族それぞれの思いを大切に、入居者が安心して終末期を過ごせるよう医療機関と密な連携を図っており、急変時にも速やかに対応できる体制を整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書に当該入居者の情報を細かく記し、次に本人に関わるケア関係者へ伝えることでケアが継続されるよう努めている。また、退居後も本人の様子をうかがい、ダメージを受けていないかを確認しフォローするようにしている。	○	一人でも多くの入居者が再び在宅での生活を行えるよう、入居者一人ひとりの力を見極め、家族の理解と協力を得ていく。在宅復帰後も変わらずいきいきと過ごしていただけるよう、事業所を挙げて本人や家族をバックアップしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけをする際には、誇りやプライバシーを傷つけないよう口調・態度に配慮し、カルテ等の個人情報の取り扱いには十分な注意を払っている。また、日々のケアの中で職員同士で気づいたことを話し合い、互いに見直し・改善を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の関わりの中から本人の希望を聞きだし、職員間で話し合い実現に向けサポートしている。本人が納得しできるだけ自分でできるよう職員が支援したり、家族の協力を得たりしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかに決めてはいるが、無理に誘ったりせず本人の意思を尊重するようにしている。自室で過ごしたり、数人で作業をしたりテレビを見るなど、ゆったりと思いつきに過ごせる時間を大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者それぞれが身だしなみやおしゃれを楽しめるよう、家族の協力を得てパーマをかけに美容室へ出かけたり、なじみの店へ化粧品を買いに出かけたりするなど柔軟に対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べやすく、嗜好するメニューを取り入れたり、四季折々の旬な食材を使ったりして、職員と入居者が一緒になって調理を行っている。会話を楽しみながら食事をし、後片付けも一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きな飲み物やお菓子などを、おやつや夕食後の団欒の時間などに楽しんでいただいている。また、希望に合わせて外食に出かけたり、散歩の時にお店に立ち寄り好きなものを自分で購入したりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗を減らせるよう、それぞれの排泄パターンに合わせて定時誘導を行っている。また、声掛けする際は周囲に気づかれないよう配慮しながらさりげなく行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回以上の入浴を提供し、それ以外でも本人の体調や希望に合わせて入浴できるよう対応している。拒否のある入居者に対しては無理強いせず、時間をおいて再度声かけを行うなど、個々のペースや希望を尊重している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中の活動量を多くしている。また、食後や散歩の後など、適宜休憩の時間をとり、ゆっくと休息できるよう環境を整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事前に情報収集を行い、畑の野菜作りや収穫、食材切りなど、入居者それぞれの趣味や職歴、生活歴を活かした活動を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って、外出時には本人の財布を持参し買い物をしていただいている。入居者の力に応じて、職員が見守り・声掛けをしながら自分でレジに行き、支払いを行うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望を聞きながら、随時ドライブや買い物などの外出支援を行っている。また、毎日の散歩では本人のペースに合わせて職員が付き添い、季節の移ろいを感じながら楽しんでいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの要望をその都度聞き出し、家族の協力を得てなじみの美容室を利用したり、供花を買いお墓参りに出かけるなど個々の思いを実現できるようサポートしている。	○	これまでの生活歴に応じて、家族の協力、理解を得ながら個別での対応を続け、入居者一人ひとりの活動の幅を広げていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月2回程の頻度で、職員がサポートしながら手紙や絵手紙などを家族や友人宛てに作成し、送付したり手渡したりしている。また、本人の希望に応じて電話をかけたり受けたりできるよう援助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者が入居者各々の居室で過ごしたり、職員や他の入居者も交えて会話を楽しみながらリビングで過ごしたりして、気兼ねなく訪問ができ、居心地よく過ごせる空間を整えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束を必要とする入居者はいない。今後も身体拘束を行うことのないよう、身体拘束廃止マニュアルを作成し、それに基づき日々のケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、来訪者にはインターホンで対応している。出入口の戸が開閉されると音と光で知らせてくれ、入居者の安全面にも配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者それぞれの行動パターンを把握するとともに、精神状態なども細かく観察し職員一人ひとりが気遣うようにしている。特に入居者が不穏状態となった場合は安全面に配慮し、細心の注意を払って対応するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の安全を第一に考え、縫い針やかみそりなどは普段職員が預ることになっているが、必要な時は入居者の状態に応じて職員が見守りを行いながら使用するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを基本としながら、入居者一人ひとりのADLを十分把握し、事故を未然に防げるよう注意している。また、職員間で声を掛け合い助け合うことを心掛け、日々のケアを実践している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間・急変時の対応についてマニュアルを作成し、それに基づき対応するようにしている。対応時に不備があればその都度ミーティングで意見を出し合い、反省するとともにマニュアルの見直しも行い今後の対応に活かしている。また、心肺蘇生法などの実技研修にも全職員が参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立会いのもと年2回避難訓練を行っており、避難経路の確認や消火器・散水栓の配置場所や使用方法などの指導を受けている。また、併設施設などと連携し、合同で研修を行うなどし非常時に備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりの状態を把握した上で、家族の面会時や介護計画を説明する時など、日頃から本人の状態や起こり得るリスクについて家族と話し合う機会を多く持つようにしている。また、説明の際には個人記録を参照して細かく伝えるようにし、家族からも些細な情報をいつでも聴取できる雰囲気作りを心掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者一人ひとりの体調を職員それぞれがよく観察し、些細な変化でも早期に発見できるよう心掛けている。また、変化がある時は日々の申し送りやミーティング等により職員全体が情報を共有できるようにし、素早い対応ができる体制を整えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの病状や服薬内容を職員各々が把握できるよう記録しており、症状の変化など細かくカルテに記載し、かかりつけ医に報告できる体制を整えている。また、服薬の増減があった場合も職員全員が把握するよう申し送りを徹底し、正しく服薬できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬だけに頼らず、繊維質を多く含む食品を考慮した献立作りを行っている。また、散歩など体を動かす機会を作り、水分補給もしっかりと行っていたりよう声掛けを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	準備や声かけを必要とする方には、その力に応じてサポートしながら毎食後欠かさず口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士からアドバイスを受け栄養バランスを考慮し献立を作成している。グループホームにある畑で作った旬の野菜を使用し、不足する食材があれば入居者と散歩がてら買い物に出かけることもある。歯の状態や好みに合わせてご飯の硬さも食べやすいよう調整している。水分補給も十分な量をとっていただけるよう声掛けしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者や職員が毎日手洗い・うがいを行うだけでなく、家族をはじめとする面会者に対しても、声掛けや掲示により手指消毒を促し感染予防への協力を得ている。その他、感染予防マニュアルに基づき早期発見・早期対応に努めるとともに、研修を実施することで感染症についての知識を再確認する機会を持つようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限を厳守し、食材を選ぶ際は鮮度のよいものを選ぶようにしている。また、まな板やふきん等には塩素消毒を行い、衛生管理を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	来訪者に分かりやすいように、玄関前のアーチに看板を掲げており、夜間帯以外は玄関の鍵を解除している。また、老人車を玄関に置き、入居者がスムーズに出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから中庭が見渡せ、中庭には家庭菜園があり、花や野菜の成長を毎日楽しめる。また、洗濯物も中庭に干しており、天候が悪くなれば入居者と一緒に中庭に出て取り込むこともできるよう、出入りしやすい掃き出し窓となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや掘りこたつがあるほか、中庭にはベンチも設置しており、入居者がそれぞれ思い思いの場所でゆったりと過ごせる空間作りをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の自宅での過ごし方を本人や家族に聞き、畳を敷くかベッドを使用するかなど、本人の希望に合わせて対応している。また、写真を飾ったり、自宅で読んでいた本などを持ち込んだり、入居者自身が過ごしやすいよう模様替えをしたりして居心地よく過ごせる空間作りをサポートしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に居室やリビングの窓を開け、換気を行っている。トイレは常時換気扇を使用している。各居室にはエアコンがあり、外気との温度差が激しくならないよう入居者の体調に合わせて調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっているほか、トイレや居室の入り口は開閉しやすい重さの引き戸となっており、入居者が出入りしやすくなっている。廊下やトイレ、浴室には手すりが設置しており、動作しやすいよう安全面に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、各居室には分かりやすく表示をしている。慣れないうちなど、表示があっても分からず混乱を招く恐れのある入居者に対しては声掛け・誘導を行いその都度対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には菜園があり、野菜を育てている。また、中庭には花を植えたプランターやベンチが置かれており、花々を眺めながらお茶を飲んだり、写生を楽しんだりしている。天気の良い日には入居者と一緒に菜園の草抜きをするなどして野菜の手入れを皆で行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、入居者が自分の住み慣れた地域で再び生活ができるよう在宅復帰への支援に力を入れています。本人や家族と十分に話し合いを繰り返しながら復帰に向けての準備を行い、今年に入り今までに3名の方が在宅復帰されました。在宅復帰した後も本人や家族に様子を伺いながら、在宅生活をサポートしています。

グループホームでの生活は、活動と休息をバランスよく行うことでメリハリをつけています。活動においては、散歩や畑作り、脳リハビリなどを行っており、入居者それぞれが主体となるよう心掛けています。職員はあくまでもサポートする立場をとりながら入居者と楽しく活動を共にしています。また、休息においては、自室でも共有スペースでも、それぞれの好みでゆっくりと過ごしていただけるよう環境を整えています。